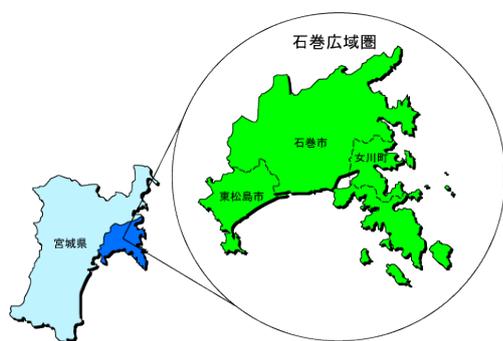


高齢者福祉施設等における 救急ガイドブック

救急車は地域を守る
セーフティーネット

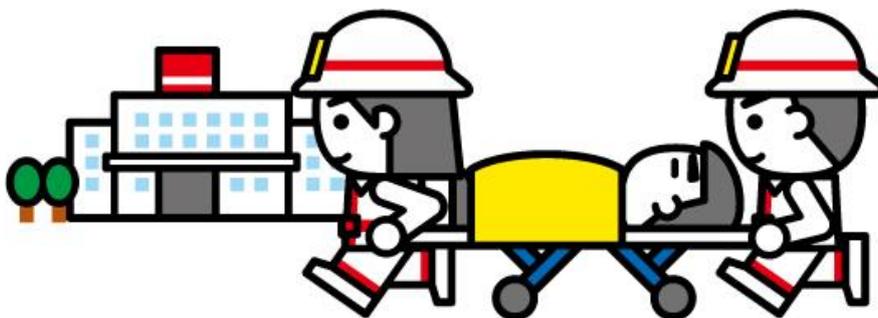


石巻地区広域行政事務組合消防本部

令和元年8月

も く じ

1.	はじめに	．．．	P 2
2.	救急の概要	．．．	P 3
3.	施設内での予防救急	．．．	P 4
4.	救急要請時対応ガイド	．．．	P 7
5.	救急要請のポイント	．．．	P 8
6.	救急連絡シート	．．．	P 10



はじめに

石巻広域圏（石巻市・東松市・女川町）の救急件数は年々増加しており、平成30年の救急件数は8,723件で、平成23年（東日本大震災発災）の救急件数10,264件の次に多い救急件数となりました。

高齢化の進展に伴い、65歳以上の高齢者の方の救急搬送が増えています。

また、高齢者福祉施設等（以下「施設」といいます。）からの救急要請も増加しており、入所者の急病や施設内での転倒事故等に起因した救急要請も見受けられます。

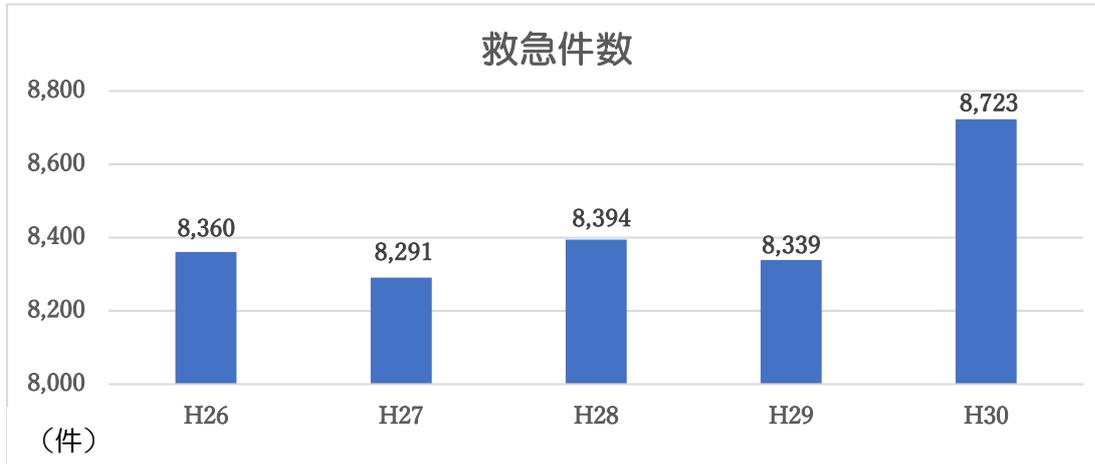
高齢者の方は、少しの病気やケガ等で、重症化する場合があります。

救急搬送が必要となる病気やケガ等を、ほんの少しの注意や心掛けで防ぐためのポイントをご紹介するとともに、いざという時の対応を確認し、救急隊と施設が円滑な連携が行えるように、この救急ガイドブックを御活用していただければと思います。

救急の概要

石巻地区（石巻市・東松島市・女川町）の救急の概要と施設からの救急要請の概要について、御紹介いたします。

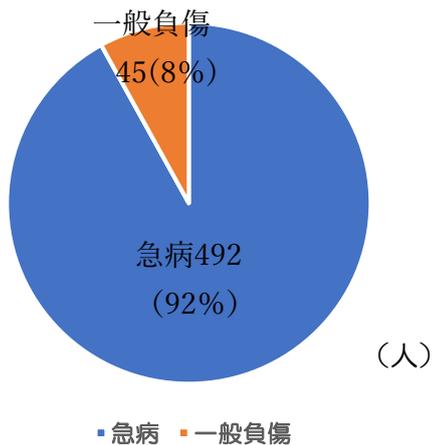
石巻地区の過去5年分の救急件数をグラフに表すと以下の通りとなり、一時的には減少した年がみられますが、概ね増加傾向であります。



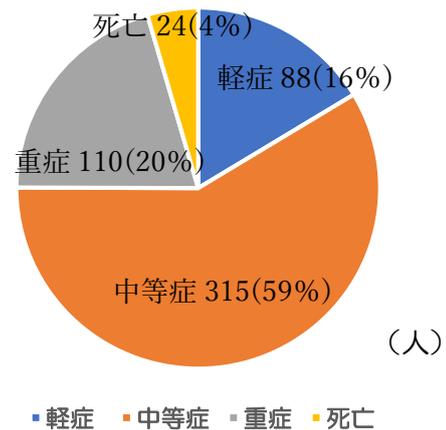
平成 30 年の救急出動件数は 8,723 件、搬送人員は 8,292 人となっています。

搬送人員 8,292 人のうち、約 7%にあたる 537 人が施設からの救急搬送でした。救急要請の理由は、急病と一般負傷であり、中でも急病が 92%を占めており、施設からの搬送者の傷病程度別では、軽症 16%、中等症 59%、重症が 20%、死亡が 4%となっています。

施設内救急の事故種別



施設内救急の傷病程度別



施設内での予防救急

救急搬送事例からみえてきた、施設内でできる「予防救急」のポイントを御紹介します。

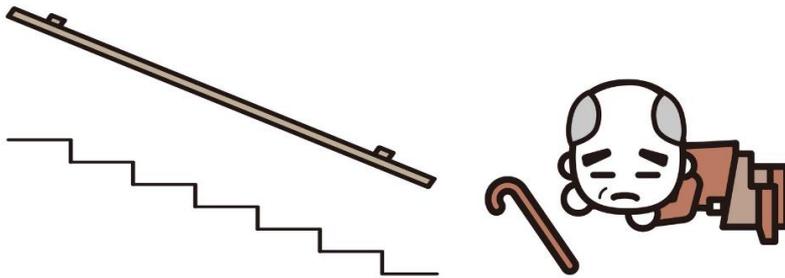
1 手洗い・うがいの励行

インフルエンザやノロウィルスなどの感染症が発生、拡大しないように、職員の皆さまだけでなく、入所者全員の手洗い・うがいを徹底してください。また、感染の経路（接触・飛沫・空気など）や、嘔吐物などの正しい処理の方法など、感染予防対策を知ることで、施設内での二次感染を防ぐことができます。

2 転倒・転落防止

高齢者の方は、普段生活していて慣れている場所でも、小さな段差でつまずいてしまい、骨折を伴う重症となってしまう場合があります。

施設内での段差や滑りやすい場所などの危険個所に注意するとともに、整理整頓を心掛け、廊下や部屋の明るさにも注意してください。



3 処方薬の副作用を確認

処方薬によっては、副作用で思った以上にふらついてしまい、ベッドから起き上がる時など、転倒・転落してしまうことがあります。処方薬の副作用を確認し、特に処方薬が変わった時や、処方薬の量が増えた時などは、服用後の容態変化に注意してください。

4 誤嚥・窒息の予防

特に脳梗塞や神経疾患の既往のある高齢者の方は、嚥下機能が障害され飲み込みにくくなっていることや、咳をしづらくなっていることもあり、誤嚥や窒息を生じやすくなっています。

ゼリーや大きな肉はもちろん、飲み込みにくいパンなどでも、窒息事故が起きています。小さく切って食べやすい大きさにしたり、ゆっくりと食事に集中できるような環境をつくり、適宜、施設職員の方が食事の様子を見守るなど、心掛けをお願いします。もしも、食事中にむせるなどの症状があった場合は、食事後の容態変化に注意しましょう。

5 温度変化に注意

高齢者の方は、温度調節機能が低下し、のどの渇きも感じにくくなっています。

夏季は「熱中症」、冬季は「ヒートショック」などによる救急事故が増える時期となります。

居室やリビングだけでなく、施設内のお風呂場やトイレ、廊下などの温度変化にも注意し、急激な温度変化を作らない環境づくりを心掛けましょう。



6 生活状況の記録

施設職員の皆さまは、入所者の方の普段の生活状況についてよく知っています。

毎日の状況や様子を記録し、いざという時のために、職員の皆さまが入所者の方の状況を把握できるような記録を作成してください。

また、救急要請に必要な情報『救急連絡シート（P10）』の作成に御協力をお願いします。

7 かかりつけ医、協力病院との連絡体制の構築

入所者ごとに、かかりつけ医師や協力病院との連絡を密にし、健康管理だけでなく、容態変化したときに相談・受診できる体制をつくりましょう。

高齢者の方であることを認識し、体調の変化に気づき、症状が発症した場合には、早めに医療機関を受診する体制を構築してください。

また、症状が悪化する前に受診することや、夜間・休日で人が少なくなる前の、早めの対応をお願いします。

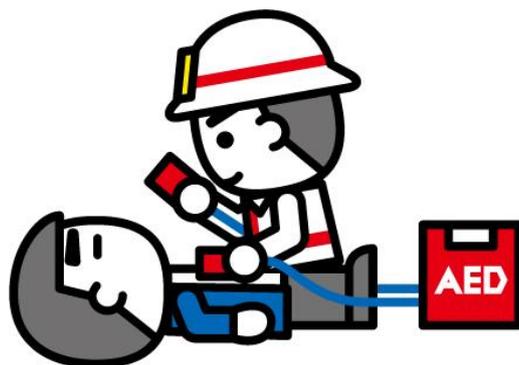
8 事故発生時の対応

施設内で事故防止に努めていても、いつ緊急事態が起こらないとも限りません。

いざというときに慌てないために、施設内で各職員がどのように行動したらよいのか、普段から考えておきましょう。

特に休日・夜間など、少ない人数で対応しなければいけない時の行動について考えておきましょう。

また、緊急時に対応する資機材（AED、救急バック等）の設置状況についても、事前に確認しておきましょう。



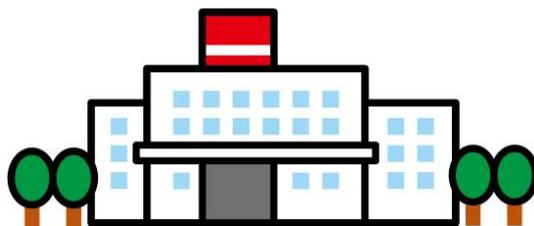
9 応急手当の習得と実施

入所者の方が生命の危険にさらされたとき、最初に気付くのは施設職員の皆さまです。

消防署では、いざというときのための応急手当を学ぶ「救命講習」を開催しています。

ぜひ、いざというときのために、応急手当を身につけましょう。

※ 詳しくは、石巻地区消防本部ホームページをご覧ください。



救急要請時対応ガイド

緊急事態発生！！

- 施設内に知らせ、職員を集めましょう。
- 集まった職員に指示してください。
- 傷病者に応急手当を実施してください。

119番通報

- 住所・施設名・電話番号
- いつ？ だれが？ どこで？ どうした？
- 傷病者の今の状況（反応・呼吸がないなど）
- 今、実施している応急手当

救急隊到着

- 玄関等のカギを開けてください。
- 傷病者の今の状況を伝えてください。
- 現場（傷病者のそば）まで案内してください。

傷病者の情報を伝えてください

救急連絡シート(P10)等を御活用ください

傷病者の付添いをお願いします。

病院への申し送りが必要です。

傷病者の状況が分かる方が救急車に同乗してください。

カルテ等の申し送りに必要な物を持参してください。

救急要請のポイント

1 施設内での対応

- (1) 緊急事態が発生したことを、施設職員に知らせてください。
- (2) 緊急事態が起こった場所に職員を集めてください。
- (3) 集まった職員の役割を分担してください。
 - 119番通報
 - 傷病者への応急手当
 - 関係者への連絡（家族・施設関係者など）
 - 救急車の誘導と救急隊を傷病者のところへ案内してください。

2 協力病院への連絡と搬送病院の確保

- (1) 状況に応じて、協力病院やかかりつけ医に連絡してください。
- (2) あらかじめ搬送先医療機関を交渉・確保されている場合は、当該医療機関へ搬送します。

※緊急度・重症度により搬送先医療機関が異なる場合もあります。

3 施設職員の同乗

- (1) 医療機関への申し送りが必要です。
- (2) 看護記録・介護記録・カルテ等を持参してください。

4 DNAR（蘇生処置をしないで）の意思表示

(1) 傷病者や家族からDNAR（蘇生処置をしないで）の意思表示（書面等）がある場合は、あらかじめ協力病院やかかりつけ医師に相談してください。

(2) DNAR（蘇生処置をしないで）の意思表示があった場合でも、救急隊は応急処置を何もしないで医療機関へ搬送することはできません。

心肺蘇生法などの応急処置を実施することが、救急隊の業務とされています。

救急隊の活動に御理解と御協力をお願いします。



5 救急車の適正利用

救急車や救急医療は限りある資源です。

次のような場合には、自家用車や患者等搬送事業者（民間）などの活用
に、御理解と御協力をお願いします。

- ・ 寝たきりである、人手がないなどが理由の場合
- ・ 寝台車を利用すれば病院に行ける場合
- ・ 末期治療のためのもの
- ・ 処方薬がなくなったので、かかりつけ病院へ行く場合など、緊急性が認められない場合

・表面は、事前に記載をお願いいたします。

【表面】

<h1>救急連絡シート</h1>			施設名：
			電話番号：
作成日	年 月 日	作成者	本人・家族・施設職員名（氏名）

住 所			
ふりがな 氏 名		性別	男・女
生年月日	年 月 日（ 歳）		
電話番号			

◆医療情報

現在治療中の病気	高血圧・糖尿病・心筋梗塞・狭心症・脳梗塞・脳出血 その他（ ）		
過去の病気歴			
服用している薬	降圧薬・抗凝固薬・インスリン その他（ ）		
かかりつけ 又は 協力医療機関等	医療機関名	診療科目	緊急時連絡先

◆普段の生活状況

介護区分		歩 行	寝たきり・車椅子・補助歩行・自力歩行		
会 話	可・不可	食 事	経口・介助経口・その他（ ）		
アレルギー	有（ ）・無	麻痺	有（ ）・無		

◆緊急時連絡先

氏 名	続 柄	住 所	電話番号

※ この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※ 救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡しします。

※ 時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

救急要請に至った状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

※状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ・・・

時 分頃

(普段どおりと確認した最終時間 時 分頃)

どこで・・・

何をしているとき・・・

どうなった・・・

直近のバイタルサイン	測定時間	時 分	観察実施者	氏名：
意識	声掛けに反応： <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 / 意識レベル：JCS ()			
呼吸数	回/分	脈拍	回/分	
血圧	/ mmHg	体温	℃	
SPO2	%	瞳孔	右 mm	左 mm

現在、実施した処置、薬剤等

その他、救急隊に伝えたいこと

・表面は、事前に記載をお願いいたします。

【記入例】

【表面】

<h1>救急連絡シート</h1>		施設名	石巻●●施設
		電話番号	0225-00-△△△△
作成日	R●年●月●日	作成者	本人・家族・施設職員名(氏名●● ○○)

住所	石巻市●●町○丁目△-□ ●●マンション○号棟△号室		
氏名	いしのまき 石巻 太郎	性別	男・女
生年月日	昭和 ● 年 ● 月 ● 日 (●● 歳)		
電話番号	0225-●●-0000 (自宅) 090-●●●●-0000 (携帯電話)		

◆医療情報

現在治療中の病気	高血圧・糖尿病・心筋梗塞・狭心症・脳梗塞・脳出血 その他 (医療情報は、重要な情報となります。該当しない病名・薬名はその他の欄に詳細に記入願います。)		
過去の病気歴	医療情報は、重要な情報となります。 該当しない病名・薬名はその他の欄に詳細に記入願います。		
服用している薬	降圧薬・抗凝固薬・インスリン その他 (お薬手帳等の情報がある場合は、持参してください)		
かかりつけ 又は 協力医療機関等	医療機関名	診療科目	緊急時連絡先
	●●病院	〇〇科 (△医師)	●●-0000
	●●クリニック	〇〇科	●●-0000

◆普段の生活状況

介護区分	要介護2	歩行	寝たきり・車椅子・補助歩行・自力歩行
会話	可・不可	食事	経口・介助経口・その他 ()
アレルギー	有 (小麦) ・ 無	麻痺	有 (左上肢) ・ 無

◆緊急時連絡先

氏名	続柄	住所	電話番号
●● ○○	妻	東松島市●●字〇〇△番地	●●-0000
●● ○○	長男	牡鹿郡女川町●●字〇〇△番地	●●-0000

※ この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※ 救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡しします。

※ 時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

救急要請に至った状況			
※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。			
※状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。			
いつ・・・			
今朝△時□分頃			
(普段どおりと確認した最終時間 ○時○○分頃)			
どこで・・・			
施設内の食堂で			
何をしているとき・・・			
食事をしていたところ			
どうなった・・・			
突然、意識がなくなった			
直近のバイタルサイン	測定時間 ●●時○○分	観察実施者	氏名：●●○○
意識	声掛けに反応： <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 / 意識レベル：JCS (100)		
呼吸数	20 回/分	脈拍	60 回/分
血圧	100 / 60 mmHg	体温	36.2 ℃
SPO2	94 %	瞳孔	右 3mm・左 3mm
現在、実施した処置、薬剤等			
酸素投与 (●L)			
その他、救急隊に伝えたいこと			
かかりつけの●●病院○○先生へ連絡済みです。			
救急隊から、搬送時に連絡が欲しいとのことでした。			